

宮城県登米市 復興共生住宅における木質バイオマス燃料利用による温室効果ガス排出削減プロジェクト
～手のひらに太陽の家をモデルにした循環型の地域づくり～

宮城県登米市の復興共生住宅「手のひらに太陽の家」において、ペレットストーブやペレットボイラーを利用することで削減された二酸化炭素をオフセット・クレジット化する取り組みです。

「手のひらに太陽の家」は東日本大震災で被災した子どもたちを支援するための施設で、福島第一原発事故に被災した親子の保養滞在を中心に受け入れています。クレジットの販売によって得られた収入は施設の運営資金として還元し、被災児童のケアのために活用されます。

プロジェクトの実施場所	宮城県登米市
削減量(予測)	年間 14 t-CO ₂
在庫量	0 t-CO ₂ (平成24年11月時点)
クレジットの次回発行予定	平成24年12月
1t-CO ₂ あたりの希望単価	¥10,000

手のひらに太陽の家は人の共生、自然との共生、地域との共生をコンセプトとした施設で、今後のライフスタイルのモデルとなることを目指してNPO法人日本の森バイオマスネットワークによって建設された復興支援施設です。

このプロジェクトで創出されたクレジットは被災児童がこの施設で生活することにより創出されたもので、その販売益がふたたび施設の運営資金として被災児童の支援のために活用されます。



▲手のひらに太陽の家 外観



▲ペレットボイラー



▲利用している被災児童の様子

■担当者連絡先

NPO法人日本の森バイオマスネットワーク 唐澤晋平
TEL:0228-22-6721 メール:office@jfbn.org